

岐阜県に予算要求（リニア・福祉・医療・くらし・教育）188項目を届け交渉 13部局と県内日本共産党役員・議員30名が9時から17時15分まで —中津川市民要求28項目を木下りつ子市議・たかみ信義元市議届ける—

8月29日岐阜県庁議会西棟会議室



9月議会の一般質問は9人
9月8日・11日の2日間

木下りつ子市議は
11日の4番目

9月8日（金）

順番	質問者	分	9月11日（月）	順番	質問者	分
1	牛田敬一	25	9月11日（月）	6	森 益城	30
2	田口文数	30		7	佐藤光司	25
3	柘植貴敏	40		8	吉村孝志	30
4	粥川茂和	40		9	木下りつ子	40
5	吉村久司	40				

木下りつ子市議の質問事項

- 1、新生児の聴覚検査について
- 2、国民健康保険料について
- 3、中津川市福岡の住民が起こしている産廃裁判について
- 4、坂下病院の現状と住民の思いについて

幕末の中山道宿場町の歴史、町民の知恵と心意気はすごい！ 8月26日 日本共産党中津川市後援会“夏のつどい”



8月26日、日本共産党中津川市後援会は、“夏のつどい”を開催。中山道資料館々長・安藤嘉之さんを講師に中山道宿の幕末の歴史・とりわけ水戸天狗党が中津川宿に到着した時の話を詳しく聞きました。

水戸藩士天狗党（尊皇攘夷を掲げる）が京都の一橋慶喜に直訴の行軍。途中で津川宿では大歓迎。天狗党は国賊扱いであったが、中津川宿では大歓迎。天狗党は処刑されたが、町民の知恵で乗り切っておとがめなし。幕府の取り調べにも誰一人告げ口なし。この話をわかりやすく話され、参加者はおもしろかった。もっと聞きたいと。

「産廃から出るダイオキシン大丈夫？」 今井医師の講演会に150人

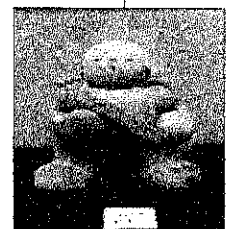


今井直幸医師

「参拝は惨敗！」と拳をあげる

9月3日産廃施設建設に反対する住民の会は講演会を福岡公民館で開催。今井医師が「もし産廃施設ができたら私たちの健康はどうか？」という具体的なベトナム戦争でアメリカ軍がダイオキシンの枯葉剤を大量にまき散らした結果、多くの奇形児が生まれ、今でも続いていること。ダイオキシンは微量でも大変毒性が強く広範囲に広がることなど、ユーモアも交えてわかりやすく話されました。

9月1〜3日平和美術展
中央公民館で開催



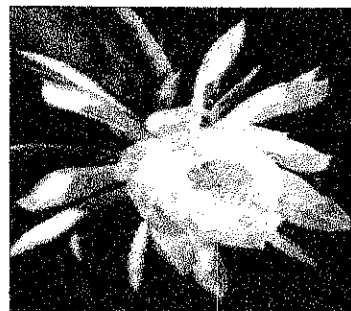
ホールに絵画・版画・押花・マンガ・絵手紙・紙芝居・彫刻・陶芸・手芸・染色・写真・きり絵・書など74点展示。

隣の部屋には自然の会の書21点が展示。

どれも平和への思いがこもった作品でした。

民報なかつがわ

No.333 2017年9月10日
発行：日本共産党中津川市委員会
連絡先：木下りつ子 090-9262-0092
日本共産党中津川市委員会の政策や活動をご紹介します。



月下美人
サボテン科孔雀サボテン属の常緑多肉植物、多年草。メキシコの熱帯雨林原産。1〜2mの高さになる。花冠は20〜25cm程度で白く香りが強い。夜に咲き始め翌朝までの一晩でしぼみ、めしべに他家受粉が起きなければ散ってしまう。開花中、開花後のしぼんだ花とも食用にできる。我が家では7輪咲いた。花言葉は「あでやかな美人」「はかない恋」

中津・南地域
から

地球温暖化・記録的短時間大雨、想定外は通用しない 大雨による災害について考えてみました

昭和7年(1932年)8月26日午後4時過ぎ、中津川市前山の穴ヶ沢と杉流谷から相次いで発生した土石流は恵下地域から四つ目川を氾濫しながら流れ下り、現在の中津川駅を超える辺りまで押し寄せました。一説によるとわずか数分で流れ下ったとも言われる程の速さだったようです。これによって死者2名、負傷者24名、流出家屋63戸、全半壊した家屋245戸、橋の流失18ヵ所ほか広範囲で耕作地が土砂に埋まるなどの大きな災害となりました。

雨量の比較

その日降り続いた雨の量は1日で**147mm**と記録されており、最近頻繁に出される「記録的短時間大雨情報」(1時間の降雨量**100mm**以上)よりも少ない雨量で大規模な土石流が発生した事になります。もちろん当時と現在の、前山の森林保水能力や二つの谷の砂防工事施工状況の違いはあると考えられますが。



四つ目川遊砂工公園中間部から中津川市中心部の遠望

機能を維持するために灌木除去や草刈りの作業が必須でありボランティアの協力などで継続されていますが高齢者が多く困難な状況です

災害を繰り返し招かないために

この大災害以降、住民や自治体の強い要望によって1937年恵下地内の山神砂防堰堤から二つの谷の上流部までの砂防工事が始まり1993年からは国の直轄事業として取り組まれ、2003年の四つ目川遊砂工完成まで継続されました。完成した遊砂工敷地内に堆積可能な土石量は昭和7年の際流れ出た量(約16万立米)をやや上回る約20万立米とされており計算通りなら同規模の土石流が発生した場合でもこの施設内に誘導、滞留が可能という事になります。

遊砂工の機能を越える災害発生の可能性は？

天災は忘れたころにやってくる

大自然の力は人間のご都合主義的な“想定”などいとも簡単に打ち砕くものです。歴史に学び最新の研究や技術を駆使し最悪を謙虚に想定して災害に備えなければなりません。毎日見上げている前山で私たちの気付かない内に新たな土石流発生危険性が增大しているのかもしれない。

前山(1351m)と登山道の昨今

子どもの頃(今から約65年ほど前から)毎日見上げていた前山には今はほとんど見られないハゲ(崩壊部分)がたくさんあったように思い出されます。最近でもよく見ると緑の間に僅かながら崩壊部分が見られます。新たな植生による崩壊地の減少もあると思われませんが樹木の生長によって樹冠が広がり崩壊部分を覆い隠し目立たなくしているのではないかと思います。今から45年ほど前、中学校の登山を案内して前山に登った事があり、その時は中学生にとって特に危険な場所は無かったように記憶していますが、最近の前山は樹林帯の登山道で途中の支尾根の両側が急峻な谷に向かってスパッと切れている危険な場所が目立つようになっており、長い経験を持つ山仲間たちとも「前山は気軽に登れない山になった」と話し合っている所です。(恵下Y.M.)

